

群馬県立 館林高等学校

テーマ

授業内容・既習範囲の定着

目的

週末課題の効率化・個別最適化



中島先生(地歴公民/左)
 前原先生(地歴公民/中央)
 中澤先生(国語/右)

—実際の取り組み—
 以前から課題はプリントを生徒に配布していましたが、ただ、作問から印刷・採点まで行う業務が毎週だとかなり負担が大きく、疲弊する部分もあったんですね。そんな中、スタディサプリを見たところ、かなり有効なアイテムだと感じ、サプリでの課題配信に置き換えました。
 プリントだけだと、理解できない部分でくじけてしまう生徒もいますが、スタディサプリなら画面の向こうに教えてくれる人がいて

—この取り組みをはじめたきっかけ—
 スタディサプリの導入当初は、積極的な先生とそうでない先生がいました。「〇〇に苦手意識がある人は、使いこなせるようになるか不安があったようですね。(中島先生)
 私のように年配の教員は、新しいものを積極的に受け入れるのが簡単ではありません。知識が足りず困る場面もありましたが、若い先生がフランクに教えてくれるので、徐々に間口が広がってきています。(中澤先生)
 パソコンに詳しい人がまず使ってみて、他の先生方に伝えていくという流れができたのがよかったですと思います。(前原先生)

3年目の群馬県立館林高等学校。進路部から各学年へ活用を促し、配信する教科については任せる形で体制づくりをしています。実際の活用方法と手応え、今後の展望をお聞きました。

自分の達成度を確認しながら繰り返しチャレンジできます。やる気はあるけど自学自習の仕方が分からない生徒をサポートしてもらえらる点があるので、予約配信機能も非常に助かっています。事前にまとめて設定しておけば、もれなく配信してくれるので。(中澤先生)
 昨年から連動課題配信の担当となり、一番基本的、かつ生徒にできるようなってほしい国語、数学、英語を週次で配信しています。実は一昨年初めて担任を持ったので、個々の生徒の苦手な分野や教科を知ってはいいても、有効なアドバイスができずに悩んでいました。連動課題配信は自動的にそれぞれの弱点を洗いだし、その部分に特化した課題を配信してくれる。担任の立場としてもありがたく使わせていただいています。(前原先生)

—生徒の変化感—
 家庭学習にスタディサプリを使う場面が多いです。学校の自習時間に見ている生徒も増えたかな。いずれにせよ分からないところがあったらスタディサプリを開くという習慣が浸透しています。(中島先生)
 受験を控える3年生は、自分の不得意に対するアンテナが高まっていますよね。模試で判明した自分の苦手分野を連動課題配信がピンポイントでケアしてくれるので、皆よく取り組んでいます。(前原先生)

—先生の変化感—
 以前から進路部内で、国語、数学、英語それぞれ30分ぐらいの課題を毎日出せるといいよね、と話をしていました。スタディサプリを使えばできそうなので、家庭学習の習慣として定着させていきたいです。(中島先生)
 各教科、各学年の担任と調整していく必要はありますが、生徒の学力向上や進路実績につながりますよね。(中澤先生)

今後は課題でなくても自宅学習をするようになってくれるのが理想です。部活など、生徒それぞれの放課後の時間に配慮できるうえ、受験生としての自覚も養われて、バランスが取れるのと考えています。(前原先生)

実際の取り組み

週次での課題配信による“授業内容の定着”と“既習範囲の学び直し”

【1】毎週末作成していたプリントの課題を廃止 → サプリで「動画+確認テスト」の配信



作問や印刷・採点の工数がかかってしまっていたほか、プリントの配付を忘れてしまう週もあった。



プリントが不要になり、採点も自動かつ即時可能に。空き時間の予約で、配信忘れも防止。

【2】到達度テストの受験 → 連動課題の週次配信により苦手を着実に克服



年に2回、到達度テストを受験し、個々の躰きを把握。



毎週配信される各教科の連動課題を受講。個々の不得意をケアでき、着実に苦手を克服。

群馬県立館林高等学校



【学校情報】

大正10年に創立された、群馬県東毛地域の館林市にある全日制普通科と定時制課程をもつ伝統ある男子高校。全日制1学年200名在籍。昨年度国立大学に25名合格。部活動も活発であり、特にレスリング部・ボート部は全国大会の常連校である。